

児童劇団やまびこ座「がらがら DON！」

やまびこ座の名前は 20 年ほど前から知っていましたが、今まで機会がなく、初めて見ることになりました。老舗だし、しっかりとまとまりのある作品を見ることになるのかなと思っていましたが、思惑は外れて、「がらがら DON！」というタイトルのとおりのギャグやふざけどころが散りばめられ、想像した「まとまりのある作品」をひっくり返したようなものでした。出演者のみなさんが自由に生き生きと舞台を楽しんでいるように感じ、パンフレットの文言にある「どんなに遠いところにも、行けるような気がする。仲良しのみんなと一緒に～」ということを実感しているような創作であったのだろうということが作品から想像できるような舞台でした。客席も物語が進むにつれてその雰囲気に取り込まれて、笑いも起き、楽しんでみる事が出来ました。

児童劇団や中高の部活での演劇を見ると、大人の指導によって出来上がったものだなと感じることが多い中、やまびこ座の舞台では子供たちの手作り感があって、私としてはとても好感の持てるものでした。演劇の手法や技術的なところは他人から学ぶことは出来ませんが、自分が「何を表現するか」については一朝一夕で他人から得られるものではなく、子供大人関係なく自分を見つめる作業が必要で、私は表現活動の原点はそこにあるはずだと思っています。その点、この作品は子供たちが主体となって作品作りがなされていると感じ、児童劇団の在り方としてはこうしたものが健全なんだろうと思いました。

自分を見つめる作業を続けることは、他人と自分が違うことを知ることでもあって、当然他人との考えの違いでぶつかることも出ますが、それを乗り越えることでより強いチームワークができ、また違った演劇の面白さを知ることが出来ると思います。出演者の皆さんには、ぜひお芝居を続けていただきたいと思います。

藤原大介（劇団飛び道具）